

空手道専門分科会企画

テーマ「中学校武道必修化」等

日時：平成26年9月11日（木）13：30—16：00

場所：福山市立大学港町キャンパス 研究棟1階 小講義室C

講師：井下 佳織（帝京平成大学）

「ケガをさせない空手道の指導法 - 授業での安全管理」

中学生体育授業の空手道指導においてとくに大きな外傷が発生しているという事例は報告されていない。しかし、突き・蹴り・受け等の基本動作、基本形、約束組手と発展した授業を展開する際に想定される起こりやすいケガ、危険な状態を具体的に取り上げる。また、ケガを回避するための指導のポイントおよび外傷予防のための足趾や反応動作の動き作りを解説する。さらに、現在成長期の空手道選手ではどのような外傷・障害が発生しているのか、コンディショニングの現状と課題を紹介する。

講師：菱木ひろみ（読売・日本テレビ文化センター講師）

「英語をとりいれた子ども空手道教室－武道のグローバル化に向けて」

子供の成長への4つの資質、①丈夫な身体、②身を守る力、③日本文化の礼儀、④国際人として英語コミュニケーション能力を同時に身につかう講座を始めた。「英語」は小学校で、「武道」は中学校で必修科目である。将来、国際舞台で活躍する文武両道の若者を育てることが目的である、

講師：嘉手苺 徹（早稲田大学大学院）

「型の構造に関する一考察」

空手道の型の構造についての研究は、主に空手道の武術、競技、武道としての関心が主要なテーマで、型に含まれる技法と運用上の問題、稽古に関わる問題などが考察されてきた。しかし、伝播ということを探ることを念頭におくと違った切り口がある。まず、パターン化された型の枠組み（構造）がある。空手道と南拳、剛柔流と上地流という違いがあるにもかかわらず、同じ枠組みを持っている。さらに、「初動」「技法の展開」「終動」（仮称）という3つの枠組み（構成要素）に共通性がみられる。「技法の展開」という型の中心部分の前後にある「礼法」や「初動」「終動」を分析することによって、南拳と空手道、空手道の流派を越えた共通性を確認することができるのではないか。

剣道専門分科会企画

テーマ「脳を活性化する剣道」

講師：湯村正仁先生（医学博士 日本外科学会専門医
中四国学生剣道連盟会長
剣道範士八段）

司会：坂東隆男幹事（大阪大学）

日時：平成26年9月11日（木）14：00—15：30

場所：福山市立大学港町キャンパス 研究棟1階 中講義室A

東洋思想の根本である物心一如の全人的体験の代表としての期待が武道にはある。本講演では、武道の中でも剣道が何故知性の脳と、情性・肉体をコントロールする脳の働きのアンバランスへの優れた自己調整法であるか、またそれを養うためにはどのような剣道をめざせばよいかを考えてみたい。

日常の生活から、丹田呼吸に取り組む、初動負荷理論によるトレーニングを取り入れる、基本を大切に作る、などの要素を取り入れた剣道を正しく行うことにより、

1. 脳血流の増加による脳全体の機能改善
2. 脳幹網様体・視床下部の刺激による意識レベルの向上
3. 自律神経系のバランス改善
4. 大脳新皮質の沈静化
5. 古皮質および脳幹の機能向上
6. 左右大脳機能のバランス調整

など、人間にとって大切な脳の機能が改善される。

その結果、自己と自己を取り巻くまわりの社会、さらに自分を取り巻く世界、自然との関わりに気づき、人と人の調和、人類全体の協調が大切なことであると知る。一人一人の人間が意識レベルをあげ、その影響を社会におよぼすことによって、人と人が相互に尊敬しあえる世界こそ、人類の滅亡から地球を救う道であり、剣道の果たす役割はこのような人間を育てることである。

（湯村正仁著『脳を活性化する剣道』より要約）

弓道専門分科会企画

テーマ「体配の動作と体幹トレーニング」

講師： 佐藤 明（東北大学）

司会： 加賀 勝（岡山大学）

日時：平成 26 年 9 月 11 日（木）13：30—15：00

場所：福山市立大学港町キャンパス 研究棟 4 階 多目的室 A

弓道の体配では、立位での執弓の構え、坐しての跪座あるいは蹲踞など威儀を正した姿勢が求められる。体幹は四肢である体肢を繋ぐ伝達系としての役割があり、下肢の運動が体幹と連動して上肢の運動に反映される。

射礼においては跪座の姿勢で待つ間、体幹にはアイソメトリックな負荷がかかる。介添えの蹲踞で待機する姿勢や弓持ち、太刀持ちの構えなどは筋力と筋持久力が要求される。

近年、スポーツ全般で体幹やコアの重要性が認識され体幹トレーニング、コアトレーニングが選手強化の手法に取り入れられている。体配動作と体幹トレーニングを対比しながらその意義を考察していく。

障がい者武道専門分科会企画シンポジウム

テーマ「障害者による武道を変える

障害者による武道で変わる

スウェーデン・オーストラリア・ニュージーランドでの知見から」

指定討論者： 岡田 龍司（近畿大学）
岡崎 祐史（武庫川女子大学）
近藤 雅一（わらしべ園）
中島たけし（障害者武道協会）
中尾智栄子・安田友美・黒瀧万里（武庫川女子大学学生）
コーディネーター： 森脇 保彦（国士舘大学）
松井完太郎（国際武道大学）

日時：平成 26 年 9 月 11 日（木）13：00—14：30

場所：福山市立大学港町キャンパス 研究棟 4 階 多目的室 B

参加無料（一般の方も参加できます）

そもそも武道は、障害者に開かれた体系を持っているはずで、なぜなら、武道の動きは、様々な状況下で如何に対処するかを切実に考える武術を起源とし、例えば、座った状態や、片腕だけが使える状況などは、はじめから織り込み済みだからです。

しかし、学問的な障害者武道の体系化は必ずしも成功していません。障害者といっても、一人ひとり状況が異なり、また事例数の少なさも科学的証明可能性に影響しているのです。私たちは、それぞれの武道の垣根を越えて、地道に個別状況の調査・研究を続ける必要があります、やがてその努力が一定の指導法群をもたらすはずだと考えます。

また、その障害者への指導法は初心者や高齢者への指導法にもなり得るはずで、障害者の武道への参加が武道の発展にも資するという関係が成り立つこととなります。

この分科会で目指すものは、何かを統合するのではなく、本来的に武道の知恵の中に包括されてきたはずの障害者武道を見つめ直すことにあります。そのためには、各武道の世界中にある現場の知見を結集することが必要となるはずで、今回は、昨年度、スウェーデンにおける障害者柔道「ねわざ研究会」キャンプに参加した会員、今年度、オーストラリア・ニュージーランドにおける障害者武道状況を視察した会員に話題を提供してもらいながら、その作業を進めます。

障害者武道に関する調査・研究が進めば、各武道専門分科会の中に取り込まれることが理想であり、その意味では、この専門分科会は各武道に奉仕し、いずれは解散することを目指す分科会となります。会員以外の参加も無料です。多くの方々の参加をお待ちしております

同会場に於いて平成 26 年障害者武道専門分科会総会も開催します。

なぎなた専門分科会企画

テーマ「なぎなたの武道必修化における現状と課題」

講師：全日本なぎなた連盟理事・強化委員長
大野 京子（元大阪府富田林市中学校体育教諭）

日時：平成 26 年 9 月 11 日（木）13：30—16：00
場所：福山市立大学港町キャンパス 研究棟 4 階 多目的室 C

武道必修化について、「なぎなた」における現状を全日本なぎなた連盟の「中学校武道必修化プロジェクト委員会」にも関与してこられた大野京子講師より講義して頂く。

全日本なぎなた連盟による平成 25 年 2 月の調査では、全国の中学校の内、63 校 23 都道府県で実施されている。時間数は、年間 35~1 時間と格差が大きい。

学校体育教諭がなぎなた経験者としてとして授業を実施しているのは大阪府が 5 校以上と多い。市の教育委員会がなぎなたを授業に導入することを決定し、市内 8 中学全体でなぎなた授業を実施しているのは、兵庫県伊丹市である。大野氏は、37 年間中学校体育教諭を務めた経験から、カリキュラムの中でなぎなたを組み入れることの可能性や課題について具体的に講義して頂く。そして、分科会の参加者全体で相互の立場を踏まえつつ、今後「なぎなた」がさらに中学校現場で普及・拡大するためにどのような努力が必要かについて、学習と討論を深める。

柔道専門分科会企画

テーマ「中学校武道必修化の現状について」

講師：小山秀謙（広島県呉市立昭和北中学校 教諭）
山本堅一（広島県教育委員会事務局教育スポーツ振興課学校
体育係 指導主事）
村田直樹（日本武道学会 理事長）
司会：山崎俊輔（日本武道学会 柔道専門分科会 副会長）

日時：平成 26 年 9 月 11 日（木）13：00—15：00

場所：福山市立大学港町キャンパス 研究棟 4 階 多目的室 D

平成 24 年度から全面実施された中学校武道必修化は、実施前に安全の確保などの面から施設・設備の条件整備や指導者の有無およびその資格等を巡り様々な議論が展開されてきた。

本分科会は実際に中学校で武道指導に携わる指導者からの報告、併せて県教育委員会の指導主事による武道授業に関わる実態および方針等の説明をして頂く。これらの報告を元にして現状を把握し、今後解決されなければならない課題を明確にし、その改善策について議論をすることで中学校武道必修化に対する提言を行うことを目的とする。